

Rくらし研究REPORT

パナホーム株式会社
住生活・デザイン研究所

2011.12.26

Vol.02

セカンドライフに関する生活者調査

パナホーム株式会社は、セカンドライフを迎える世代の意識と行動を明らかにするため、定年前後の55歳～65歳の生活者を対象に、インターネットによるアンケート調査(2011年6月)を実施し、分析を行いました。

対象者の多くは、様々なライフステージを経て、定年を機に、再び夫婦2人が向き合う時を迎えます。結婚当初の夫婦2人の時から、家族の成長や様々な経験を経て、その中で少しずつ、夫婦それぞれ価値観や心配事に変化が出てくると考えられます。より豊かなセカンドライフを迎えるためには、妻と夫それぞれの本音を探ることが重要だと考えました。

アンケートにご回答いただいた多数の方々にお礼を申し上げますとともに、住まいとくらしのあり方を考える情報として、この調査結果をご利用いただけましたら幸いです。

【調査結果の要約】

将来のくらしについて、 夫は夢や理想を語る一方で、妻は現実を直視する。

生活に関する価値観や夫婦間の意識、住まいへのニーズについて、夫婦共通の加齢に伴う不安や要望だけでなく、夫婦それぞれの違いが明らかになりました。

1

<くらしに関する価値観について>

夫婦ともに、「自分の自由な時間を充実させたい」と考える人が50%超。将来の不安は、老化による衰えのほか、妻は「夫と過ごす時間が増えること」、夫は「生きがいや目標が失われること」が上位に。

2

<夫婦間の意識について>

夫婦ともに、「相手への思いやり・気遣い」と考える人が65%前後で最多。妻は夫に自立や家事への協力を求め、夫は妻と一緒に過ごす時間や家族とのコミュニケーションを求める傾向が強い。

3

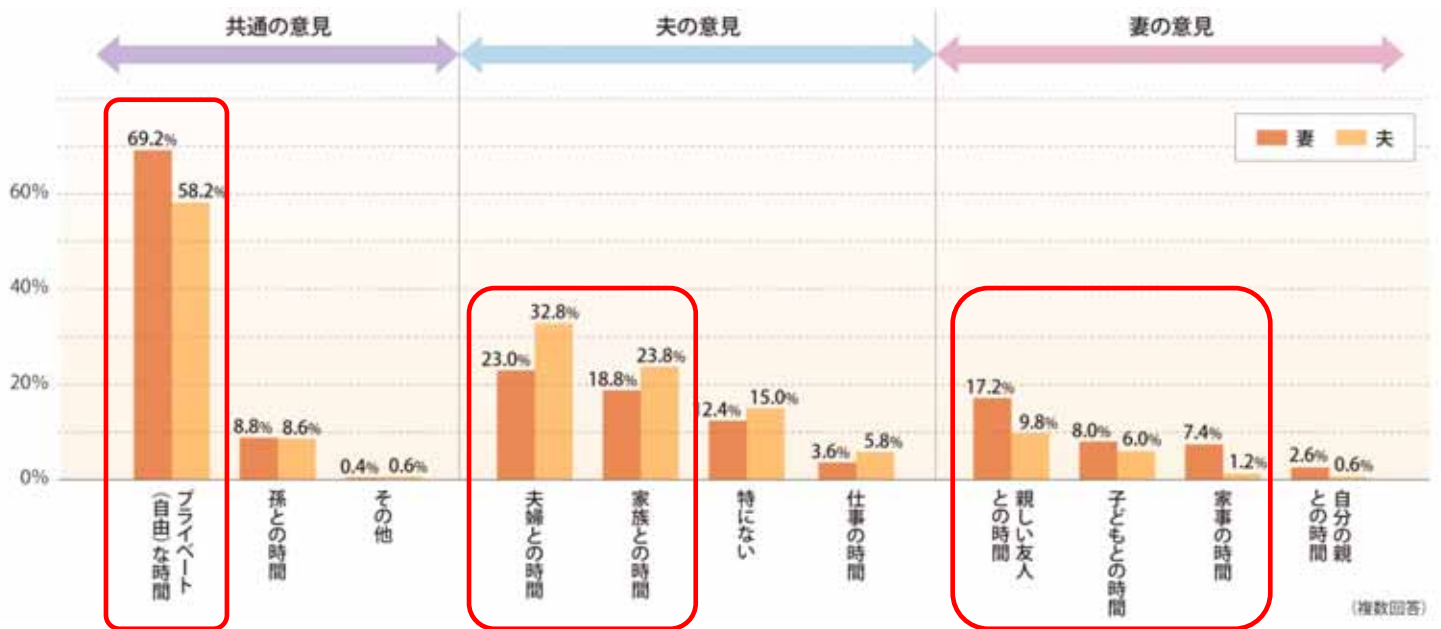
<住まいに関するニーズについて>

約20%が、建物や設備の老朽化、収納についての課題を持つ一方、自分専用の空間や収納空間を求める傾向は高い。自分専用の空間では、夫は趣味室、妻は多目的に使える部屋を望んでいる。

【1.くらしに関する価値観について】

充実させたい時間

夫婦ともに50%以上が、「プライベート(自由)な時間」と回答。夫は「夫婦」や「家族」の時間が、妻は「親しい人」「子ども」「家事」の時間がポイントが高くなっています。夫婦お互いが自由な時間を大切にしながらも、夫は妻や家族と過ごす時間に期待を抱き、妻は親しい人や子どもと接する時間を大切にしていることが伺えます。



将来への不安(上位10位)

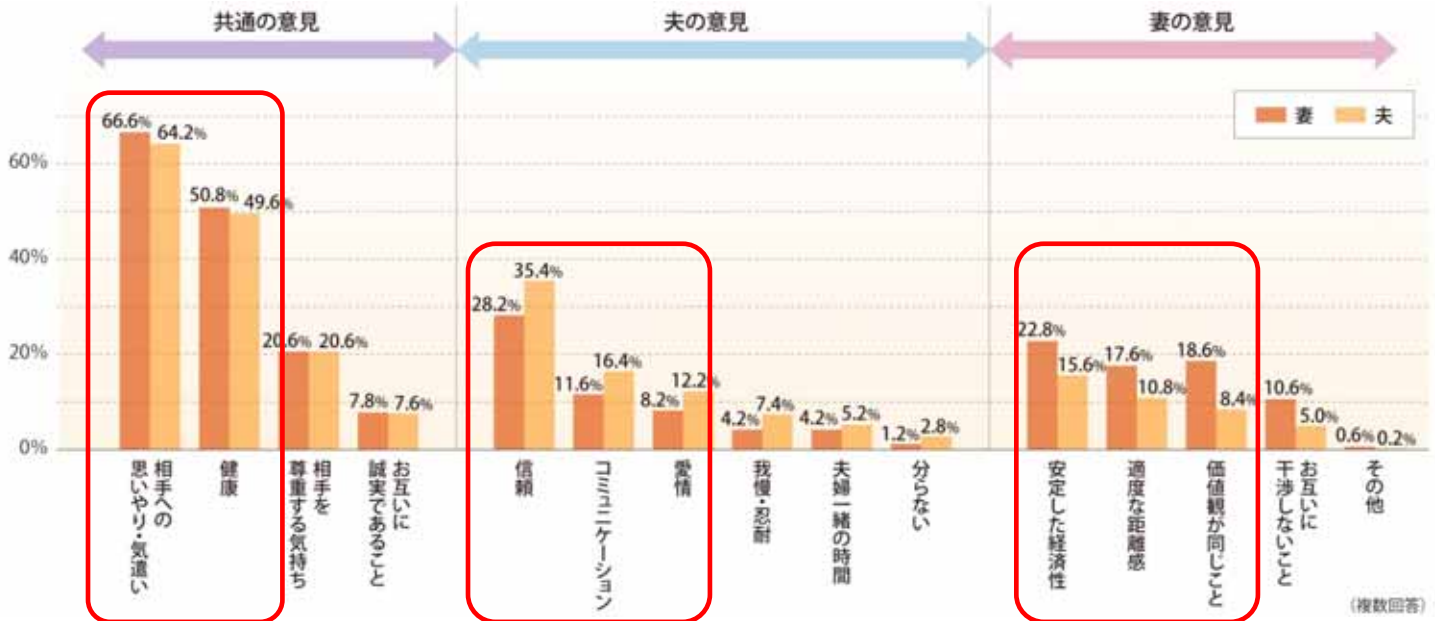
夫婦ともに、加齢に伴う身体の衰えや収入面の不安が上位を占めます。5位以下では違いが見られ、妻は自分の生活ペースが崩れることに不安を感じ、夫は定年後の身の処し方について不安を抱く傾向にあります。

妻の不安や心配事		夫の不安や心配事	
1位	加齢による身体の衰え	66.4%	61.8%
2位	いつまでも病気やケガなく、健康でいられるか	59.6%	53.8%
3位	収入がなくなること	38.4%	49.6%
4位	配偶者に先立たれ、孤独になること	29.6%	27.8%
5位	配偶者の在宅時間がこれまでよりも長くなること	20.8%	16.4%
6位	生きがいや目標が失われないか	13.6%	8.8%
7位	資産や所有地、建物管理ができるか	12.8%	7.8%
8位	家事の分担や協力ができるか(協力してもらえるか)	12.2%	6.4%
9位	不安に感じることはない	9.8%	5.8%
10位	夫婦間の会話を楽しめるか	7.8%	5.6%

【2. 夫婦間の意識について】

夫婦にとって大切なこと

夫婦ともに、「相手への思いやり・気遣い」(60%超)、「健康」(約50%)が高くなっています。夫は、「信頼」「コミュニケーション」「愛情」についてのポイントが高い一方で、妻のポイントが高い項目は「安定した経済性」「適度な距離感」「価値観が同じこと」。夫は妻に対する期待や依存度が高く、妻はより具体的で現実的な意識を持っていることが伺えます。



配偶者に求めたいこと(上位10位)

夫婦ともに「健康」「長生き」「お互いの助け合い」などに関する項目が上位を占めています。妻は夫に、「自分の身の回りのことは、自分でしてほしい」「家事を手伝って欲しい」など、自立や協力を求める項目が目立ち、夫は妻に、「共通の趣味など一緒に過ごす時間を持ってほしい」など、夫婦で一緒に楽しむことや良好な家族関係を求める傾向にあります。

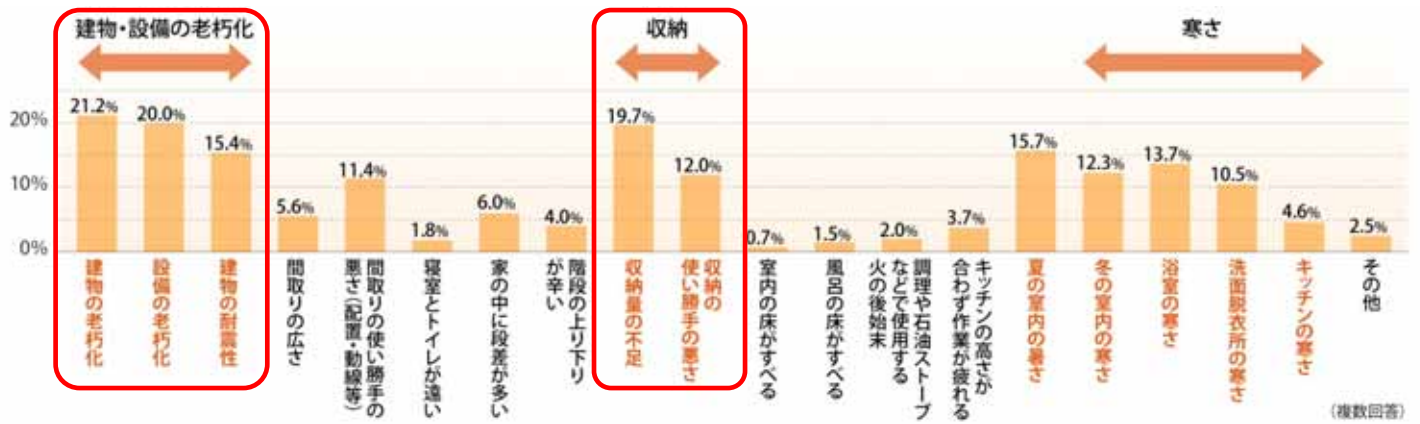
妻が夫に求めたいこと		夫が妻に求めたいこと	
1位	健康に気をつけてほしい 56.8%	1位	健康に気をつけてほしい 52.2%
2位	お互い干渉しないで、自由に過ごしたい 42.8%	2位	長生きしてほしい 38.8%
3位	趣味、生きがいを持てほしい 41.4%	3位	のんびり、好きなことをしてほしい 36.6%
4位	のんびり、好きなことをしてほしい 34.0%	4位	趣味、生きがいを持てほしい 31.0%
5位	長生きしてほしい 33.8%	5位	お互い干渉しないで、自由に過ごしたい 25.0%
6位	いつも身ぎれいにしてほしい 31.8%	6位	身体が衰えたらお互いに助け合って生活したい 24.2%
7位	身体が衰えたらお互いに助け合って生活したい 29.8%	7位	家でいつも機嫌よくしてほしい 22.2%
8位	自分の身の回りのことは、自分でしてほしい 29.2%	8位	共通の趣味など一緒に過ごす時間を持ってほしい 19.4%
9位	家事を分担してほしい、手伝ってほしい 28.6%	9位	いつも身ぎれいにしてほしい 18.0%
10位	家でいつも機嫌よくしてほしい 23.8%	10位	子どもや孫と良好な関係を持ってほしい 15.4%

上記以外の項目でも、妻は、「休みの日に家でごろごろしないでほしい」(12.2%)「家や家族のことに興味を持ってほしい」(12.6%)などのポイントが、夫に比べて高くなっています。

【3. 住まいに関するニーズについて】

現在のお住まいで困っていること

約20%の人が、「建物や設備の老朽化」「建物の耐震性」のほか、「収納」に関する項目を課題としています。「収納」は、どの世代においても困りごとに挙がる項目ですが、家族の成長や生活スタイルの変化を繰り返した世代の住まいにおいてはより切実な課題になるようです。また、室内の暑さや寒さに関する項目では、特に浴室や洗面脱衣所の寒さについて、身体に堪える大きな課題として挙がっています。



日常生活での困りごとは「なかなかモノが捨てられない」

日常生活における困りごとや不安なこと

妻

1位: なかなかモノが捨てられない	29.6%
2位: 庭の草木の手入れや外回りの掃除	22.4%
3位: 家の中が片付かない	21.0%
4位: キッチン換気フードの掃除	20.4%
5位: 地震が発生したときの備え	20.2%

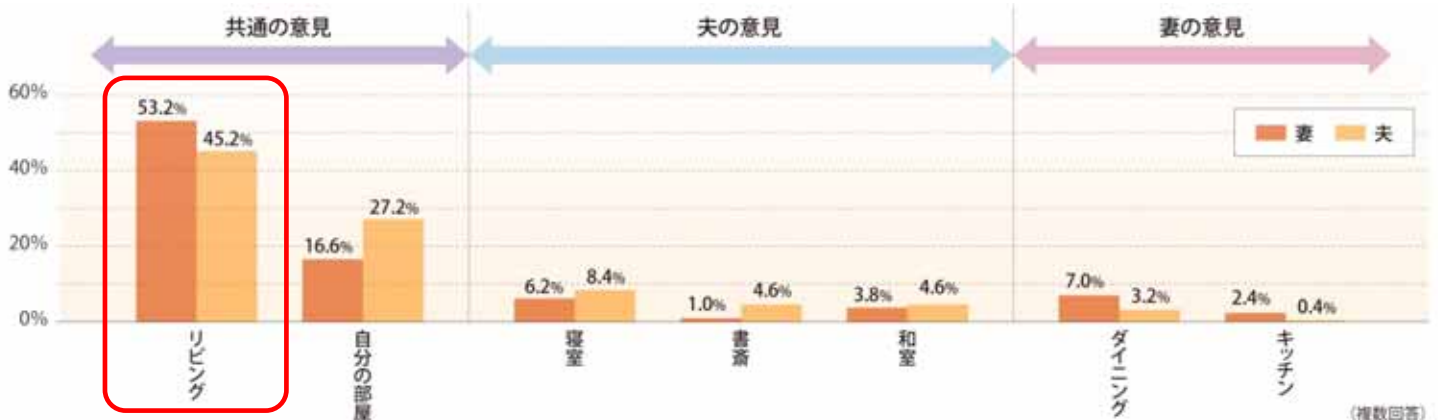
夫

1位: なかなかモノが捨てられない	27.6%
2位: 地震が発生したときの備え	20.7%
3位: 庭の草木の手入れや外回りの掃除	20.5%
4位: 家の中が片付かない	49.8%
5位: 自分や配偶者が要介護になっても 住み続けられるか	16.5%

夫婦ともに1位は「なかなかモノが捨てられない」。この世代では、モノの要不要を判断することや、捨てる作業などが精神的、体力的に負担になってくるようです。さらに、妻は、住まいをきれいに保つこと、夫は地震への備えや、要介護になったときの住まいに対する不安も挙げています。

居心地のいい場所

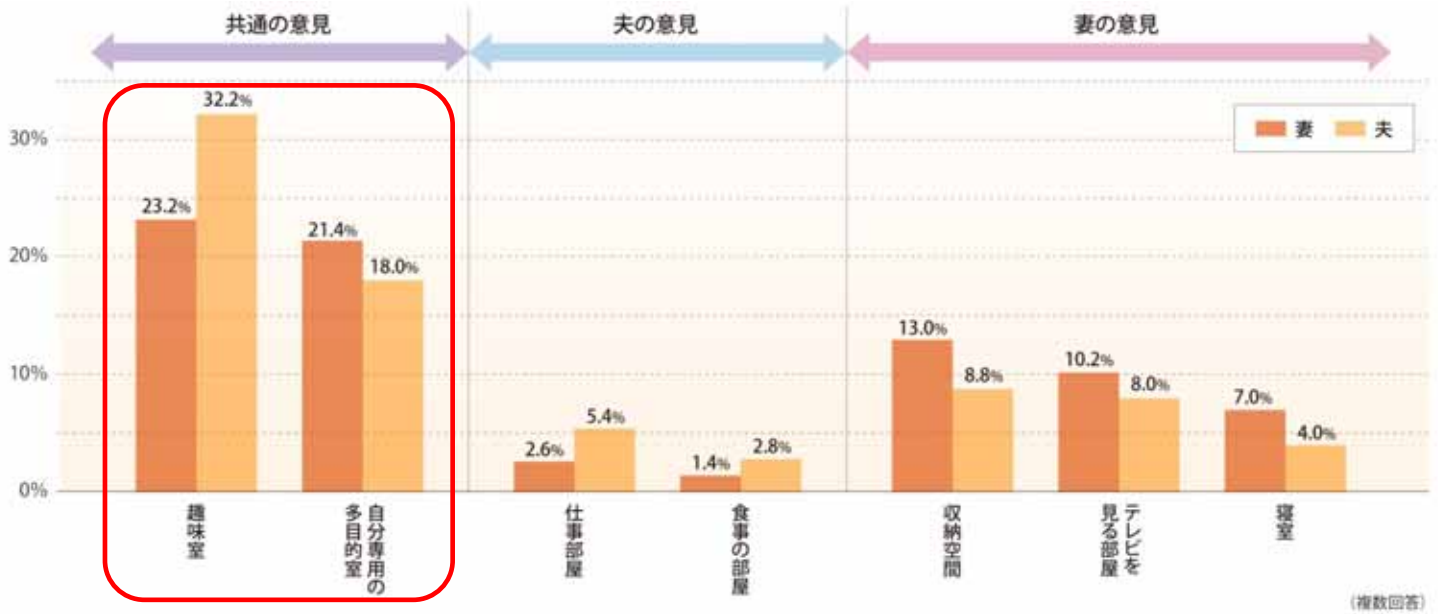
夫婦ともに、「リビング」(50%前後)と回答。夫は「自分の部屋」「寝室」「書斎」など個室中心の回答が多く、妻は「リビング」のほか「ダイニング」「キッチン」など、一日の中で長く過ごす空間を回答しています。



[3. 住まいに関するニーズについて]

自分専用に欲しい空間

夫婦ともに「趣味室」「自分専用の多目的室」を欲しい空間に挙げています。夫は、趣味を楽しむ目的の空間を希望していますが、妻はパソコンをしたり、テレビをみたり、自分の好きなことができる多目的な空間を求めているようです。



夫婦で必ず分けたい空間や生活行為とその理由[自由記述回答:212件より]

寝室 83件 (8.3%)

- ・夫の就寝時間が極端に早く、私は夜型なので寝室だけは別にしたい (60代後半 男性・50代後半 女性)
- ・主人のいびきがひどいので寝室を別にしたい (50代後半 女性)
- ・寝室、寛ぎの部屋は別々にしたい (60代前半 女性)

趣味・書斎 42件 (4.2%)

- ・読書したり、パソコンをしたり、自分だけの空間がほしい (50代後半 男性)
- ・一人になりたい時(読書など)の部屋がほしい (50代後半 男性)
- ・日中、自分の趣味を気兼ねなく楽しみたい (60代後半 女性)

テレビ・パソコン17件 (1.7%)

- ・テレビの番組の好みが違うので、別々に見ることが時々ある (60代前半 女性)
- ・パソコン、テレビなど、生活パターンが異なる。(60代前半 男性)

()カッコ内の数値は全1,000件に対する割合です。

回答者の5人に1人は、「夫婦それぞれで分けたい空間がある」という結果でした。「寝室」を筆頭に、夫婦それぞれの生活リズムや嗜好の違いが大きく影響する空間が挙げられています。その一方で、「寝室」については、別々にしたい反面、「トイレが遠くなるのでは」「相手が病気にかかっても気づかない問題が生じるのでは」など心配する意見もありました。

【調査結果のまとめ】

近年、高齢者人口は益々増加傾向にあり、2020年には65歳以上の人は全人口の約30%（1）を占めると言われています。女性の平均寿命が86.3歳（2）となっていることを見ると、60歳で定年を迎えても、まだ約25年間は生活していくことになります。しかし、60歳を過ぎると加齢に伴う心身の衰えが顕著に表れてきます。

ここ数年、セカンドライフを迎える世代向けの住まいは、ユニバーサルデザインなど加齢配慮の提案が浸透し、住みやすいものになってきています。しかし、このように加齢に伴う身体の問題の解決、いわゆるハードについての改善はなされてきましたが、今までの人生経験や加齢に伴い、はっきり違いが出てくる夫婦の価値観や暮らしに対する要望についてまで踏み込んだ提案はまだ少ないように思われます。

今回の調査の、【1.暮らしに関する価値観について】では、妻は、夫と過ごす時間が増えること、そのことで家事などの負担が増えることに不安を感じ、夫はリタイア後のくらしを楽しめるかどうかについて不安を感じていることが伺えました。

また、【2.夫婦間の意識について】では、妻は、夫婦お互いの距離感など個人を大切にすることを望む一方、夫は逆に信頼やコミュニケーション等、妻や家族と一緒に過ごすことを望む傾向が伺えました。

さらに、【3.住まいに関するニーズについて】では、夫婦それぞれの心地よい居場所づくりや、モノがなかなか捨てられなかったり、モノが多いこの世代ならではの収納計画の見直しの必要性が大きいことが明らかとなりました。

以上、今回の調査で私ども住宅会社としての課題がいくつか見えてきました。セカンドライフを迎える世代への提案として、夫婦を一括りにせず、夫婦それぞれの考えに耳を傾け、よりきめ細やかな配慮が、私ども住宅会社にとって重要であると考えます。

今回の調査で明らかとなった夫婦の価値観や暮らしに対する要望の違いは、セカンドライフを迎える世代だけでなく、幅広い世代においても同様の傾向が見られるのではないかと推測されます。このような視点での研究を今後も継続して取り組み、幅広い世代に向けて、より良い住まいづくりの提案に活かしてまいります。

1: 国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集(2011)「将来推計人口の年齢構造に関する指標: 2005～55年」より

2: 厚生労働省 平成22年簡易生命表より

調 査 概 要

調査目的	セカンドライフに関するWebアンケート調査
調査対象	55～65歳の男女
調査地域	首都圏（1都3県）・東海圏（3県）・近畿圏（2府4県）
調査方法	インターネット調査
調査時期	2011年6月7日～8日
有効回答	1000件

～ 55歳から人生を楽しむ～ パナホームの『セカンドライフ・リフォーム』について

仕事を離れ、子どもたちも独立するなど、様々な暮らしの変化をむかえるセカンドライフは、築年数を経た住まいも見直す時期をむかえます。パナホームは、セカンドライフ世代のご夫婦の暮らしに関する価値観や住まいに関するニーズにお応えして、お客様の将来の暮らしに対する不安を解決し、ご夫婦がこれからの人生をより楽しくらせる『セカンドライフ・リフォーム』を提案します。

【セカンドライフ世代の悩みや不安を解決するリフォームの3つのポイント】

1. 夫婦の幸せな距離感

気兼ねなく一人になれる場所と2人の居心地の良い共生空間でメリハリのある空間構成。

- ・家事分担しやすく、動きやすい共生空間の設計
- ・夫と妻、それぞれの専用空間の確保
- ・気配がわかり快適な寝室環境の確保
- ・地縁、血縁との関わりにも配慮



夫も家事分担しやすい共生空間キッチン

2. 健康や加齢への配慮

カラダの変化を見越したあらかじめの安心設計にエコや睡眠などの工夫をプラス。

- ・身体の変化を見越したバリアフリー
- ・温度差負担を軽減する断熱性能
- ・自然を活かしたエコで快適な睡眠環境



段差のない入浴しやすい浴室まわり

3. 忘れない適所収納

しまいやすく取り出しやすい物の多い世代のための収納計画。

- ・ウォークスルータイプの大型収納
- ・すぐわかる、見せる収納
- ・使い勝手を考えた適所収納



くらしを豊かにする見せる収納

詳しくは、下記のサイトをご参照ください。

パナホーム・ホームページ「セカンドライフ・リフォーム」

<http://www.panahome.jp/reform/recommend/secondlife/>